

平成15年度

簿記

(全問必答)

第1問 次の問い(A・B)に答えよ。〔解答記号 ~ 〕(配点 40)

A 次の(1)~(5)のそれぞれは、ある取引について5伝票制のもとで起票された伝票(略式)、仕訳および取引要素の結合関係を示したものである。これらにもとづいて、16ページの問い(問1~3)に答えよ。なお、()は各自で考えること。

(1) 伝票

<input type="text" value="ア"/>
平成×年6月1日
受取手数料 50,000

仕訳 (借) 現金 50,000 (貸) 受取手数料 50,000
取引要素の結合関係 [] ————— [収益の発生]

(2) 伝票

<input type="text" value="ウ"/>
平成×年6月2日
給料 30,000

仕訳 (借) 給料 30,000 (貸) 30,000
取引要素の結合関係 [費用の発生] ————— [資産の減少]

(3) 伝票

<u>振替伝票(借方)</u>		<u>振替伝票(貸方)</u>	
平成×年6月3日		平成×年6月3日	
土地	800,000	資本金	800,000

仕訳 (借) 土地 800,000 (貸) 資本金 800,000

取引要素の
結合関係

[資産の増加] ————— [**才**]

(4) 伝票

力	
平成×年6月4日	
岩手商店	60,000

仕訳 (借) () 60,000 (貸) **キ** 60,000

取引要素の
結合関係

[費用の発生] ————— [**ク**]

(5) 伝票

<u>売上传票</u>	
平成×年6月5日	
秋田商店	70,000

仕訳 (借) **ケ** 70,000 (貸) 売上 70,000

取引要素の
結合関係

[資産の増加] ————— [**コ**]

簿記

問 1 空欄 **ア** ・ **ウ** ・ **カ** にあてはまる伝票の名称を、次の解答群のうちから一つずつ選べ。ただし、同じ名称を何度選んでもよい。

ア ・ **ウ** ・ **カ** の解答群

- | | | |
|--------|--------|--------|
| ① 入金伝票 | ② 出金伝票 | ③ 売上伝票 |
| ④ 仕入伝票 | ⑤ 振替伝票 | |

問 2 空欄 **エ** ・ **キ** ・ **ケ** にあてはまる用語を、次の解答群のうちから一つずつ選べ。ただし、同じ用語を何度選んでもよい。

エ ・ **キ** ・ **ケ** の解答群

- | | | | | |
|-------|-------|------|-------|--------|
| ① 入金 | ② 出金 | ③ 振替 | ④ 売掛金 | ⑤ 小口現金 |
| ⑥ 買掛金 | ⑦ 未払金 | ⑧ 仕入 | ⑨ 売上 | ⑩ 当座預金 |
| ⑪ 現金 | ⑫ 未収金 | ⑬ 損益 | | |

問 3 空欄 **イ** ・ **オ** ・ **ク** ・ **コ** にあてはまる取引要素を、次の解答群のうちから一つずつ選べ。ただし、同じ取引要素を何度選んでもよい。

イ ・ **オ** ・ **ク** ・ **コ** の解答群

- | | | |
|---------|---------|---------|
| ① 資産の増加 | ② 資産の減少 | ③ 負債の増加 |
| ④ 負債の減少 | ⑤ 資本の増加 | ⑥ 資本の減少 |
| ⑦ 費用の発生 | ⑧ 収益の発生 | |

簿記

B 和歌山商店は単一仕訳帳制を採用している。次の資料は、和歌山商店における補助簿の一部を示したものである。資料にもとづいて、次ページの問い(問1～3)に答えよ。なお、()は各自で考えること。

資料 和歌山商店の補助簿(一部)

サ

収 入	平成 ×年	摘 要	支 出	内 訳				残 高
				交通費	通 信 費	消耗品費	雑 費	
70,000	2	1 前月繰越						70,000
		3 伝票代	7,000					63,000
		7 電話料金	26,000					37,000
		13 コピー用紙代	3,000					34,000
		17 バス回数券代	4,000					30,000
		19 コーヒー代	2,000					28,000
		23 郵便切手代	15,000					13,000
		合 計	()	()	22,000	7,000	2,000	
22,000		28 小切手受け入れ						()
		" 次月繰越	70,000					
()			()					
70,000	3	1 前月繰越						70,000

(注) 内訳欄への記入は省略してある。

ツ

平成 ×年	摘 要	金 額	手形 種類	手形 番号	支払人	振出人 または 裏書人	振出日		支払期日		支払場所	てん末		
							月	日	月	日		月	日	摘要
2	8 売掛金	550,000	約手	14	宮崎商店	宮崎商店	2	8	4	9	津銀行	2	9	割引
	20 売上	300,000	為手	34	佐賀商店	高知商店	2	20	3	21	津銀行	3	21	入金
		850,000												

問 1 の空欄 ・ にあてはまる補助簿の名称を、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

・ の解答群

- | | | |
|---------|-----------|-----------|
| ① 商品有高帳 | ④ 当座預金出納帳 | ⑦ 小口現金出納帳 |
| ② 売上帳 | ⑤ 仕入帳 | ⑧ 売掛金元帳 |
| ③ 買掛金元帳 | ⑥ 受取手形記入帳 | ⑨ 支払手形記入帳 |

問 2 の空欄 ～ にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 3 の補助簿 に示されている取引について、次の空欄 ～ にあてはまる勘定科目を、下の解答群のうちから一つずつ選べ。ただし、同じ勘定科目を何度選んでもよい。

- (1) 約束手形#14の取引について、2月8日に、当店(和歌山商店)では 勘定の借方と 勘定の貸方に記入する。
- (2) 為替手形#34の取引について、2月20日に、当店(和歌山商店)では 勘定の借方と売上勘定の貸方に、振出人である高知商店では 勘定の借方に、引受人である佐賀商店では 勘定の貸方に、それぞれ記入する。ただし、高知商店、佐賀商店ともに、手形は商品売買代金と掛け代金の受け払いにのみ用いている。

～ の解答群

- | | | | |
|---------|--------|--------|---------|
| ① 現金 | ④ 当座預金 | ⑦ 当座借越 | ⑩ 売掛金 |
| ② 買掛金 | ⑤ 受取手形 | ⑧ 支払手形 | ⑪ 手形貸付金 |
| ③ 手形借入金 | ⑥ 売上 | ⑨ 仕入 | ⑫ 支払利息 |

簿記

第2問 東京商店(決算は年1回、決算日は3月31日)には、本店、千葉支店および横浜支店がある。支店の会計は本店から独立しており、支店間の取引の記帳については本店集中計算制度を採用している。なお、2月末現在、未達事項はなかった。

資料1 と **資料2** にもとづいて、次の問い(問1~4)に答えよ。ただし、金額の単位はすべて千円である。なお、()は各自で考えること。

[解答記号 **ア** ~ **ツ**] (配点 30)

問1 **資料1** の空欄 **ア** ~ **キ** にあてはまる勘定科目を、次の解答群のうちから一つずつ選べ。ただし、同じ勘定科目を何度選んでもよい。なお、本店・各支店は個別に当座預金口座を設けている。

ア ~ **キ** の解答群

- | | | | |
|---------|--------|--------|----------|
| ① 本店 | ② 千葉支店 | ③ 横浜支店 | ④ 本店から仕入 |
| ⑤ 支店へ売上 | ⑥ 現金 | ⑦ 当座預金 | ⑧ 受取手形 |
| ⑨ 売掛金 | ⑩ 買掛金 | ⑪ 給料 | ⑫ 消耗品費 |
| ⑬ 広告料 | ⑭ 修繕費 | | |

問2 3月末現在、横浜支店における本店勘定の貸方残高は¥472である。また、本店・横浜支店間の3月末における未達取引は、**資料1** の3月27日の取引のみである。このとき、本店における横浜支店勘定の残高は¥**クケコ**である。**ク** ~ **コ** にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問3 **資料2** にもとづいて、3月中の次の各金額を計算すると、千葉支店における本店からの総仕入高(未達分を除く)は¥**サシス**、千葉支店から横浜支店への商品の送付高は¥**セソ**、横浜支店から本店への返品高は¥**タチ**となる。**サ** ~ **チ** にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問4 **資料2** にもとづいて、3月末現在の未達商品に含まれる内部利益額を計算すると、¥**ツ**となる。**ツ** にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

資料1 平成×年3月の本支店間・支店相互間の取引(商品取引を除く)と各支店の仕訳

4日 千葉支店は小切手を振り出し、本店の広告料を立て替えて支払った。

〔千葉支店〕 (借) 本店 11 (貸) ア 11

13日 本店は、横浜支店の買掛金を徳島商会振り出しの小切手で支払い、横浜支店は同日中にこの通知を受けた。

〔横浜支店〕 (借) イ 25 (貸) 本店 25

15日 本店は、各支店で使用する事務用消耗品を現金で一括購入して各支店に送付し、各支店はその事務用消耗品を同日中に受け取った。

〔千葉支店〕 (借) ウ 14 (貸) 本店 14

〔横浜支店〕 (借) ウ 17 (貸) 本店 17

17日 本店は、横浜支店の当座預金口座に現金を振り込み、横浜支店は同日中にこれを確認した。

〔横浜支店〕 (借) エ 23 (貸) 本店 23

22日 千葉支店は、横浜支店の修繕費を立て替え、現金で支払った。本店および横浜支店は同日中にこの通知を受けた。

〔千葉支店〕 (借) 本店 6 (貸) オ 6

〔横浜支店〕 (借) カ 6 (貸) 本店 6

25日 本店は、各支店の従業員の給料を現金で立て替えて支払った。各支店は同日中にこの通知を受けた。

〔千葉支店〕 (借) キ 46 (貸) () 46

〔横浜支店〕 (借) キ 44 (貸) () 44

27日 横浜支店は本店に現金を送付した。なお、この現金は4月5日に本店に届いた。

〔横浜支店〕 (借) () 23 (貸) () 23

簿記

資料2 平成×年3月の諸勘定

(1) 千葉支店：本店から仕入勘定

本店から仕入							
3/ 1	本	店	96	3/ 8	本	店	15
17	本	店	72	20	本	店	66
25	本	店	30				

(2) 横浜支店：本店から仕入勘定

本店から仕入							
3/ 2	本	店	54	3/16	本	店	12
10	本	店	48				
20	本	店	66				

(3) 本店：支店へ売上勘定

支店へ売上							
3/ 8	()	支店	15	3/ 1	千 葉	支店	96
16	()	支店	12	2	横 浜	支店	54
				10	横 浜	支店	48
				17	千 葉	支店	72
				25	千 葉	支店	30
				31	千 葉	支店	27

(注) 本店から支店へ商品を送付するときは、原価の50%の利益を加算した価額で送付している。ただし、支店が、本店から仕入れた商品を他の支店に送付するときは、本店から仕入れた価額で送付することとしている。たとえば、本店が原価¥100の商品を千葉支店に送付するときは、¥150で送付する。他方、千葉支店がこの商品を横浜支店に送付するときは、そのまま¥150で送付する。

簿記

第3問 山形商事株式会社(決算は年1回、決算日は3月31日)の前期末繰越試算

表、当期(平成×3年4月1日から平成×4年3月31日まで)における取引の一部、
ならびに買掛金勘定の明細、未記帳事項、決算整理事項および精算表は、

資料1 ~ 資料3 のとおりである。

資料1 ~ 資料3 の空欄 ア ~ ヒ にあてはまる数字を、解答
用紙の解答欄にマークせよ。ただし、金額の単位はすべて百万円である。なお、

()は各自で考えること。(解答記号 ア ~ ヒ)(配点 30)

資料1 前期末繰越試算表

繰越試算表							
平成×3年3月31日							
借	方	金額	貸	方	金額		
現	金	125	支	払	手	形	150
当	座	預	買	掛	金		180
受	取	手	借	入	金		300
売	掛	金	未	払	法	人	税
繰	越	商	未	払	利	息	10
前	払	地	貸	倒	引	当	金
建		物	建	物	減	価	償
備		品	備	品	減	価	償
建	設	仮	資	本	金		2,100
勘	定		資	本	準	備	金
			利	益	準	備	金
			未	処	分	利	益
							61
		3,111					3,111

資料2 当期における取引の一部

1. 期首に、事務用のパソコン(帳簿価額¥160)を下取りに出して、新しいパソコンを¥250で購入し、下取価額¥100との差額は、小切手を振り出して支払った。なお、当期において、備品の取得および売却はこれ以外にはない。

2. 期首に、かねて東京建設株式会社に建築を依頼していた倉庫用建物が完成し、引き渡しを受け、すでに支払ってある金額を差し引いた残額¥200は小切手を振り出して支払った。なお、当期において、建物の取得はこれ以外にはなく、また売却は行われていない。
3. 法人税および住民税の中間申告を行い、¥**力****キ**を現金で納付した。
4. 平成×3年9月30日に、宮城銀行からの借入金¥300を利息¥20とともに小切手を振り出して返済した。ただし、この借入金は、平成×2年10月1日に期間1年、返済時に利息全額を支払うという条件で借り入れたものである。なお、当期において、利息の支払いはこれ以外にはない。
5. 平成×4年1月1日に、同年12月31日までの地代1年分¥60を現金で支払った。ただし、地代は毎年1月1日に1年分を支払っている。また、地代は近年一定であったが、今回の支払分から値上がりしている。なお、当期において、地代の支払いはこれ以外にはない。

資料3 買掛金勘定の明細、未記帳事項、決算整理事項および精算表

1. 買掛金勘定の明細(平成×4年3月31日)

青森商事	¥ 200
秋田商事	㊦ ㊦ 0
新潟商事	<u>100</u>
	<u>¥()</u>

なお、買掛金勘定の金額は残高試算表の金額と一致しており、未記帳事項は反映されていない。

2. 未記帳事項、決算整理事項および精算表

- (1) 未記帳事項(残高試算表には反映されていないので、修正記入欄に記入する。)
- ① 秋田商事に対する買掛金¥150を小切手を振り出して支払っていたが、未記帳である。
 - ② 現金の実際有高を調べたところ、帳簿残高よりも¥50多く、その内容を調査したところ、仙台商事から売掛金の回収として受け取っていた郵便為替証書¥50が未記帳であることが判明した。

簿記

(2) 決算整理事項

- ① 商品の帳簿棚卸高は¥ 300 であり、棚卸減耗は生じていない。ただし、時価が原価より下がったことによる評価損¥ 20 を計上する。なお、売上原価は仕入勘定で算定し、評価損は売上原価に算入しない。
- ② 受取手形と売掛金の期末残高に対して、¥ 9 の貸し倒れを見積もる。なお、貸倒引当金の設定は差額補充法による。
- ③ 建物と備品の減価償却費を計上する。
建物については、定額法により¥ 45 の減価償却費を計上する。
期首に取得した備品については、定率法により計算する。なお、償却率は 0.2 である。
- ④ 支払地代¥ () を次期に繰り延べる。
- ⑤ 法人税等¥ 29 を計上する。

(3) 精算表

精 算 表
平成×4年3月31日

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	110						110	
当座預金	610						610	
受取手形	350							350
売掛金	300						300	
貸倒引当金		20						9
繰越商品	20						20	
仮払法人税等	20							
建物	1,500						1,500	
建物減価償却累計額		15						60
備品	()						()	
支払手形		350						350
買掛金		()						400
資本金		2,100						2,100
資本準備金		150						150
利益準備金		78						78
繰越利益		28						28
売上		3,500				3,500		
仕入	2,500				2,350			
給料	840				840			
支払地代	()				20			
支払利息	()				29			
()	20				()			
	6,791	6,791						
商品評価損					20			
貸倒引当金戻入						11		
減価償却費					20			
備品減価償却累計額								()
前払地代							()	
法人税等					29			
未払法人税等								14
当期純利益					56			56
					3,511	3,511	3,295	3,295

(注) 修正記入欄への記入は省略してある。